



vol.3  
ゆるい  
教育論  
「ブルーオーシャン戦略」

「他人と比べない」という生き方が流行っていますが、その時代背景を、非競争にまつわるビジネス用語を交えてご紹介します。

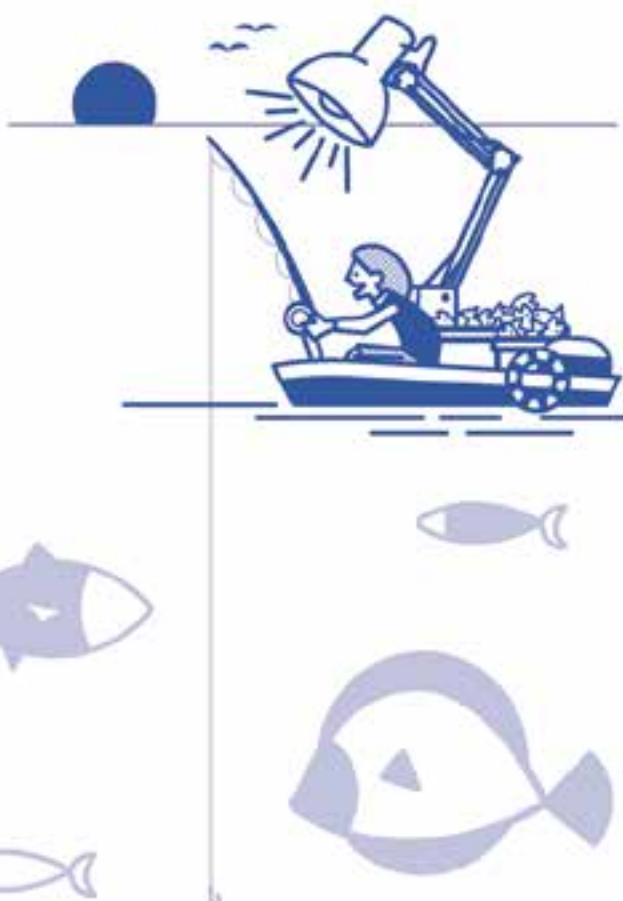
ブルーオーシャン戦略とは、周りとの激しい競争のある場所（血に染まった赤い海）にいるのではなく、ライバルのいない独自の領域（静かな青い海）を自分で作り出していくという戦略です。他人との競争ではなく、いかに自分がユニークになれるかにエネルギーを使っていくということです。ライバルのいない環境では自然とナンバーワンになれるということでもあります。

情報化社会の時代の背景も、ブルーオーシャン戦略を後押しします。テレビや新聞など一方向のメディアが中心だった時代は、昔と同じ一つのモノサシで判断することができましたが、今はスマホ時代。情報は双方向に、どんな人にも、ものすごいスピードで伝わっていきます。価値観は信じられないくらい多様化しています。

進学、特に大学選びに関しても同じで、優劣値という一つのモノサシでは判断できなくなっています。子どもが少なくなり、入試で「選抜」するほどの人数がいらないので、入試は自分と大学の価値観をすり合わせる「マッチング」と考えた方が良くなってきました。これから大学は入学が簡単で、進級や卒業が難しいという形になってきます。

就職や社会人になってからのライフスタイルにも同じことが言えます。かつては、「いくらゲームが好きでもそれで食べていくことはできない」とよく言われたのですが、今やゲームだけで生活するユーザーやプロゲーマーという人もいます。ゲームに限らず、自分にしかできない独自のものがあれば、その情報はすぐに広まりどこかで価値を認めてくれる人がいるという事です。

誰もユニークな能力は持っていませんが、競争をしない生き方にも努力は必要です。好きなことに徹底的にのめりこむこと、自分の魅力を他の誰かに気づいてもらうためにたくさん世の中に発信することが大切です。独自の価値観を磨いて競争せずに最高の存在になるという「ブルーオーシャン戦略」は時代にフィットした生き方なのかもしれません。





# 2月のトピックス Topics

## S-classの vol.3 スタッフコラム 「新時代のスポーツ」 Staff Column



今月の担当者  
高坂 真也

青森市出身、学習塾 S-class 講師。8年ぶりにスキーに行きました。やっぱりグレンデからの景色は最高ですね。



**中** 学3年受験生は先日第二次の倍率が発表され、ついに進路決定の時期です。偏差値が高い学校は倍率が下がり、そうでない学校は倍率が上がる傾向にあります。個別にご相談したいことがあればLINE@からどうぞ。これからの時期は模試直しと実践演習、暗記事項に絞って学習していくと良いです。

**自** 他共に認めるゲーム好きの僕にとつて、うれしい動きが起こっています。最近、e-sportsという言葉をテレビやインターネットで見られるようになりました。正式名称はエレクトロニック・スポーツと云って、競技性の高いテレビゲームを使った対戦をスポーツとして捉える際の名称だそうです。

高3受験生はセンター試験が終わり、国公立大学は出願の時期に入っていきます。二次試験はセンターよりも応用的な深い問題が出題されます。今までに1年以上かけて二次対策の学習している場合は実践演習をしていくと良いです。そうでない場合はセンター後の残り期間が少ない中ではかなり単元を絞って学習していくこととなります。

日本では、法律の関係や新しいスポーツということもありまだまだ規模は小さいですが、お隣の中国や

韓国、またアメリカでは黄金総額20億円を超える大会も開催されていて、プロとして活躍する選手も多くなりました。日本でも、ごく一部ですがプロ契約をした人たちがいます。その一人であるプロゲーマーのときどき(本名谷口)選手が「笑ってコラえて」という番組に出演したのを見た人もいるのではないのでしょうか。

残り良い印象を持っていない人は多くいますが、それでも一つの競技として捉えようとする動きがあることはゲームそのものが新しい時代に入っただけの表れだと感じています。これから5年、10年後にどうなっているか想像が付きませんが、今は認知度が低く規模も小さい日本で今後少しずつでもe-sportsが発展していく、沢山のプロゲーマーの活躍を見たいものだと願っています。

## わかったよりも大切な、わからない

高校2年生はセンター試験を実際に解いてみると良いです。来年の受験まで期間としては1年以上ありますが、学校の授業もこなしながら過さず1年間では思ったよりも成績が伸びないものなので、1年間をどう過ごすか考えてみましょう。



**冬** の個人面談をしままで足を運んでいただいたこと、とてもありがたいことです。勉強のことや雑談等いろいろなお話をするのですが、保護者の方は皆さん優しいので塾のことを褒めていただいたりしてとてもうれしかったです。

その中でも特別うれしかったのが、「しつこく質問しても答えてくれるので、とても助かっています」というお言葉でした！生徒たちは本当は理解

してはなくても、先生に気を遣って「わかった」と言ってしまうことが多いです。「わからない」を言いやすい環境を作るのが塾の役目だと考えて、気を配っているつもりです。わからない状態をわからない状態に変化させていくのが学習ですから。

そういうわけで、質問しやすいというお褒めの言葉はすごくうれしかったです。「わかった」も大切ですが、「わからない」をもっと大切にする塾でありたいです。